

4 地区小体連のあゆみ

[1] 宮崎市小学校体育連盟

I 年間事業

期 日	曜	事業名	主 な 内 容	会 場
4月28日	木	常任理事会	年間事業計画・第1回理事会内容について	生目台東小学校
5月10日	火	第1回理事会	役員選出 事業計画	中央公民館
5月31日	火	常任理事会	水泳競技大会検討・研究推進	生目台東小学校
5月 7日	火	授業研究会	山下 克幸 教諭のボール運動の授業	生目台東小学校
6月10日	金	第2回理事会	水泳競技大会検討・研究推進	中央公民館
7月 中旬		各ブロック	水泳大会プログラム編成	各ブロック
7月26日	火	第3回理事会	水泳大会前日準備	各会場
7月27日	水	第48回宮崎市小学校水泳競技大会		各会場
		常任理事会	水泳大会結果集計	生目台東小学校
8月 2日	火	常任理事会	水泳大会反省・陸上競技大会検討・研究推進	生目台東小学校
8月 5日	金	体育実技指導者地区別講習会		生目台東小学校
8月26日	金	第4回理事会	陸上競技大会検討 研究推進	中央公民館
10月13日	木	常任理事会	陸上競技大会プログラム編成	生目台東小学校
10月24日	月	第5回理事会	陸上大会前日準備	生目の杜運動公園
10月25日	火	第51回宮崎市小学校陸上競技大会		生目の杜運動公園
10月28日	金	宮崎県学校体育研究発表大会えびの・小林・高原地区大会		えびの市立飯野小学校
12月 1日	木	授業研究会	濱辺大地 教諭 授業研究・研究協議	高岡小学校
12月 9日	金	授業研究会	綾部智彦 教諭 授業研究・研究協議	広瀬北小学校
12月16日	金	授業研究会	永野佳太 教諭 授業研究・研究協議	生目台東小学校
2月24日	金	第6回理事会	年間事業報告・研究部反省 事業部反省・次年度の計画	中央公民館
3月10日	金	常任理事会	年間反省・次年度に向けて	生目台東小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳競技の部

- (1) 大会名 第48回宮崎市小学校水泳競技大会
- (2) 実施日 平成28年7月27日(水)
- (3) 会場 13ブロック会場
住吉小学校、倉岡小学校、櫛小学校、附属中学校、港小学校、
小松台小学校、生目台東小学校、宮崎南小学校、赤江小学校、
学園木花台小学校、那珂小学校、高岡小学校、石崎の杜鯨館室内プール
- (4) 出場者 宮崎市内各小学校5、6年生代表児童(のべ2794名)
- (5) 実施種目 ○ 25m(自由形、平泳ぎ) ○ 50m(自由形、平泳ぎ)
○ 100mリレー ○ 200mリレー
- (6) 競技方法 ○ タイムレースとする
○ 出場は、リレーを除き、一人1種目とする。
○ 競技は、原則として学年別、男女別とする。
○ 細部については、宮崎市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 8:45 競技開始 9:00

競技終了 11:00 閉会式終了 11:20

(8) 表彰

- 各ブロックで測定した記録を集計し、上位10位までを入賞とし表彰する。
- 各ブロック内、個人種目は3位以内、リレー種目は1位に賞状を渡す。
- 参加児童全てに記録証を渡す。

(9) 反省

本年度は、13のブロックに分かれて大会を実施した。25mプールを使ったので、昨年度とは違い25m競技や100mリレーを種目に入れ、より多くの児童が参加できる大会にした。自分の記録への挑戦や他の学校の児童との競争が十分に図られた。

参加した児童は学校での事前指導が十分に行われており、きびきびと行動することができた。また、応援する態度も良く、最後まで熱心な声援が響いていた。また、ブロック開催であったので、近隣の学校同士ということもあり自分の学校以外の選手を応援する姿が多く見られ、参加児童の親睦が図られた。また、どの会場も選手児童の保護者等が多く観戦し、熱心な応援が見られた。

今後も実態に応じたルールや出場人数などを検討・修正し、より内容があり児童が全力で取り組めるように実施していきたい。また、競技進行が体育主任を中心に行い、役員として参加された先生方の協力もあってスムーズに進んだ。一昨年の反省でバスの到着を待つ時間が長くなったブロックもあったが、本年度は業者との連絡を密にする計画を立て送迎も問題なく行われた。

次年度は、県総合運動公園水泳場に市内全小学校の代表児童が集まる「一斉開催」となる。県内トップレベルの競技場で実施するよさを生かした大会となるようにしていきたい。

今後も、本年度のように各ブロックで開催する大会と県総合運動公園水泳場で開催する大会とを隔年で実施することによって、どちらのメリットも生かしながら、より充実した大会になれるよう、市小学校体育連盟として努力していく所存である。

2 陸上競技の部

- (1) 大会名 第51回宮崎市小学校陸上競技大会
- (2) 実施期日 平成28年10月25日(火)
- (3) 会場 宮崎市生目の杜運動公園陸上競技場
- (4) 参加児童 宮崎市内小学校6年生(参加人数3801名)
- (5) 競技種目
◎一般参加種目 80m走 50mハードル走 ロードレース
◎選手参加種目 100m走 50mハードル走 800m走(女子)
1000m走(男子) 走り幅跳び 走り高跳び
ソフトボール投げ 400mリレー
- (6) 競技方法
○ 選手種目については、タイムレースとする。
○ 児童の出場は、リレー(選手)を除き一人1種目とする。
○ 児童の服装は、体育服とし、スパイク使用は禁止とする。
○ 細部については、宮崎市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程
開会式 9:10 競技開始 9:50
競技終了 15:00 閉会式終了 15:20

(8) 表彰

- 選手種目市内上位10位までを入賞とし表彰する。
- 陸上教室参加児童全てに記録証または努力賞を渡す。

(9) 反省

市内全小学校6年生と役員、保護者等で4000人を超える人が集まる盛大な大会となった。選手の児童、一般走の児童どちらも競技に粘り強く取り組み、自己の能力を向上させようと自分の出場する種目に取り組んでいた。また、学校での学習がしっかり行なわれており、ルールをしっかり把握し、記録に挑戦していこうとしていた。自分の記録がよくなって喜ぶ児童の姿や順位が上位に入って喜ぶ姿も見られた。そのような中、大会新記録を三種目で4人の児童が出した。応援では、自分たちの学校の応援はもちろんのこと、隣接する学校と共同で応援する学校もあり、親睦を図り友情を育てることができた。

昨年度に引き続き、写真判定機の操作補助等、陸上連盟の方々に協力をいただいた。陸上連盟の方々には、審判や判定の仕方等にも助言をもらい大変感謝している。今後もぜひ協力を要請したいと考えている。また、各学校の役員になった先生方も積極的に会の運営に携わっていただいた。

バスの予算化や手配を学校教育課が行ってもらい、たいへんありがたい。本年度は、業者の配車の関係により、早い時間帯に出発する学校や帰りが遅くなる学校がでてきた。今後、学校教育課や業者の方との打合せ等を行い、児童・職員の負担を減らしていきたい。

市内全小学校の6年生が一堂に会して大会を開催する意義は大きい。大規模な大会を開催する上で配慮すべきことはいろいろとあるが、子どもたちのために今後も努力していきたい。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方
 ～「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業をめざして～

2 研究の視点

- (1) 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫
- (2) 指導と評価の一体化を推進する評価活動の工夫
- (3) 体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動の在り方

ここに「アクティブ・ラーニング」の視点を取り入れる。

3 研究の内容

- (1) 主体的・対話的で深い学びを促すための手立ての工夫
- (2) 指導と評価の一体化を推進する評価活動の工夫
- (3) 体力の向上を図るための資料や場、単元指導計画の工夫

【授業者】
 2年 ボールゲーム:的当てゲーム
 高岡小学校 濱辺 大地 教諭
 5年 保健:けがの防止
 広瀬北小学校 綾部 智彦 教諭
 4年 器械運動:跳び箱運動
 生目台東小学校 永野 佳太 教諭

4 研究の組織

- (1) 全体研究・・・理論の共通理解 等
- (2) 班別研究

研究班	具体的な取組	研究内容との関連
ボール運動班	ボールゲーム(2年生)の指導案等資料の作成、研究授業の実施	(1)(2)
保健班	保健「けがの防止」(5年生)の指導案等資料の作成、研究授業の実施	(1)(2)
器械運動班	跳び箱運動(4年生)の指導案等資料の作成、研究授業の実施	(1)(2)
水泳班	技能指導のポイント集作成	(3)
陸上運動班	単元の指導計画作成	(3)
体づくり運動班	児童向けの資料作成	(3)
HP(ホームページ)班	宮崎市小体連ホームページの更新 (情報の提供)	(1)(2)(3)

5 研究の実際

- (1) 主体的・対話的で深い学びを促すための手立ての工夫

① 単元計画の工夫

児童の主体的・対話的で深い学びを促すために、常に自分達の課題を意識できる単元計画の工夫を行った。以下は、2年生「ボールゲーム (的当てゲーム)」の単元計画例である。

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
オリエンテーション ・出会いのゲーム ⇒課題の発見・共有 ・学習の進め方確認	(ねらい1) 投げること、捕ることの技能を身に付け、ゲームを楽しもう。		(ねらい2) 身に付けた技能を使って、ゲームを楽しもう。		的当てゲーム大会
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 課題の解決 ←→ 新たな課題の発見 </div>					

② 話し合いの場の設定

児童相互による対話が深い学びにつながるよう、単元を通して意図的に、グループによる話し合いの場を設けた。【写真1】

話し合いの際、解決すべき課題を明確にすること、話し合いのための資料等を精選しておくことなどに留意した。

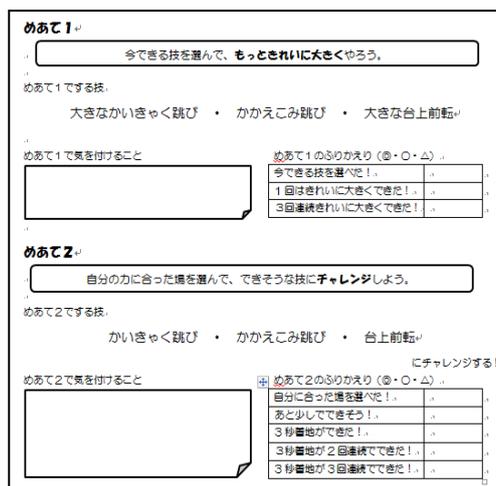


【写真1 話し合いの様子(保健)】

③ 学習カードの効果的な活用

児童の主体的な学びを促すため、学習カードの工夫を行った。【資料1】

右の資料は、4年生「跳び箱運動」で活用した学習カードである。その時間のめあてとなる技を自己決定し、そのめあてを達成するために「気を付けること」を記述させる。友達同士でその「気を付けること」を共有し、お互いに教え合いながら学習を進めることができた。



【資料1 跳び箱運動の学習カード】

(2) 指導と評価の一体化を推進する評価活動の工夫

① 学習カードの活用

評価の視点を明確にし、児童が自らのめあての達成状況を把握できるようにした。評価の視点が明確であるため、周りの児童や教師もその場で評価を行い、アドバイスを与えることができた。【資料1】

② ポートフォリオの活用

児童の学びの履歴（活用した資料、作成物等）をファイリングさせた。このことにより、児童は自分の学びをいつでも振り返ることができるようになった。また、教師も児童の学びの履歴を確認し、必要に応じて的確な指導を行うことができた。

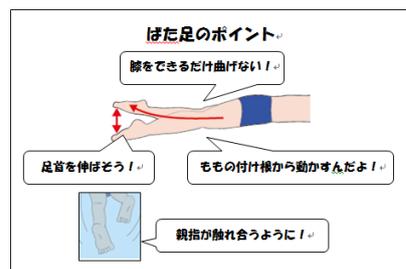


【資料2 体づくり運動に関する資料】

(3) 体力の向上を図るための資料や場、単元指導計画の工夫

① 資料の収集、整理と情報の共有化

体づくり運動に関する児童向けの資料や、水泳に関する技能指導のポイント集を作成した。また、この情報を各学校で共有し、体力向上に関する取組が広がっていくよう、宮崎市小体連ホームページに掲載した。【資料2・資料3】



【資料3 水泳に関する資料】

② 単元指導計画の作成

体力の向上を図るための単元指導計画を作成した。単元の中に、「基礎感覚を高める運動」や「基礎的な運動の技能を高める運動」を計画的に組み込み、継続して体力の向上を図れるようにした。【資料4】

また、単元学習後も児童が進んで運動に取り組めるよう、単元終末で記録会を設けるなどの工夫を行った。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 視点1については、上記のような具体的な取組を行ったことにより、児童の主体的・対話的な学びが促進され、深い学びにつながっていた。
- 視点2については、学習カードの工夫により、指導と評価の一体化を推進することができた。
- 視点3については、具体的資料を収集、整理、提供したことにより、専門的な指導法を多くの指導者が共有でき、全体的な指導力の向上につながった。

(2) 課題

- 深い学びを促すための、具体的な「問い」(○○ができるようにするために、どのようなことをするのか)について、さらに研究を深めていきたい。

高学年	距離走・リレー	1.	2.	3.	4.	5.	6.
学級の目標	距離やルールを定めて競争したり、記録を高めたりすることができる。(持論)						
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> めあて1で、短距離走に取り組み、めあてまでリレーに取り組む。 めあて2では、短距離走の記録を伸ばすために練習に取り組み、記録へ挑戦する。 めあて3で、みんなと協力してリレーに取り組む、記録へ挑戦する。 						
単元の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 50m定の記録を測定し、自分の能力を把握する。 めあて1では、短距離走の記録を伸ばすために練習に取り組み、記録へ挑戦する。 スタート練習・中間先生の練習・速く走るための動き作り。 いろいろなコース(カーブ、スラローム等)や距離での競争をする。 めあて2では、4-6人でチームを作り、最初のリレーの記録をとり、その記録よりもタイムを2秒(3秒・4秒)を目標に練習に取り組み。 記録の少ないバトンパスの仕方を見直し、練習する。 50m走やリレーの記録会をする。 						
単元の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 短距離走やバトンパスなどのルールを定めて競争したり、自己(チーム)の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら、一定の距離を力で走ることができるようになる。 						
【提示】	<ul style="list-style-type: none"> 50-80m程度の短距離走。 スタンディングスタートから、素早く走り始めること。 上体をラックさせて余力で走ること。 いろいろな距離でのリレー(一人が走る距離は0-100m)。 テイクオーバーゾーン内で、記録の少ないバトンパスをすること。 						

【資料4 陸上運動の単元指導計画】